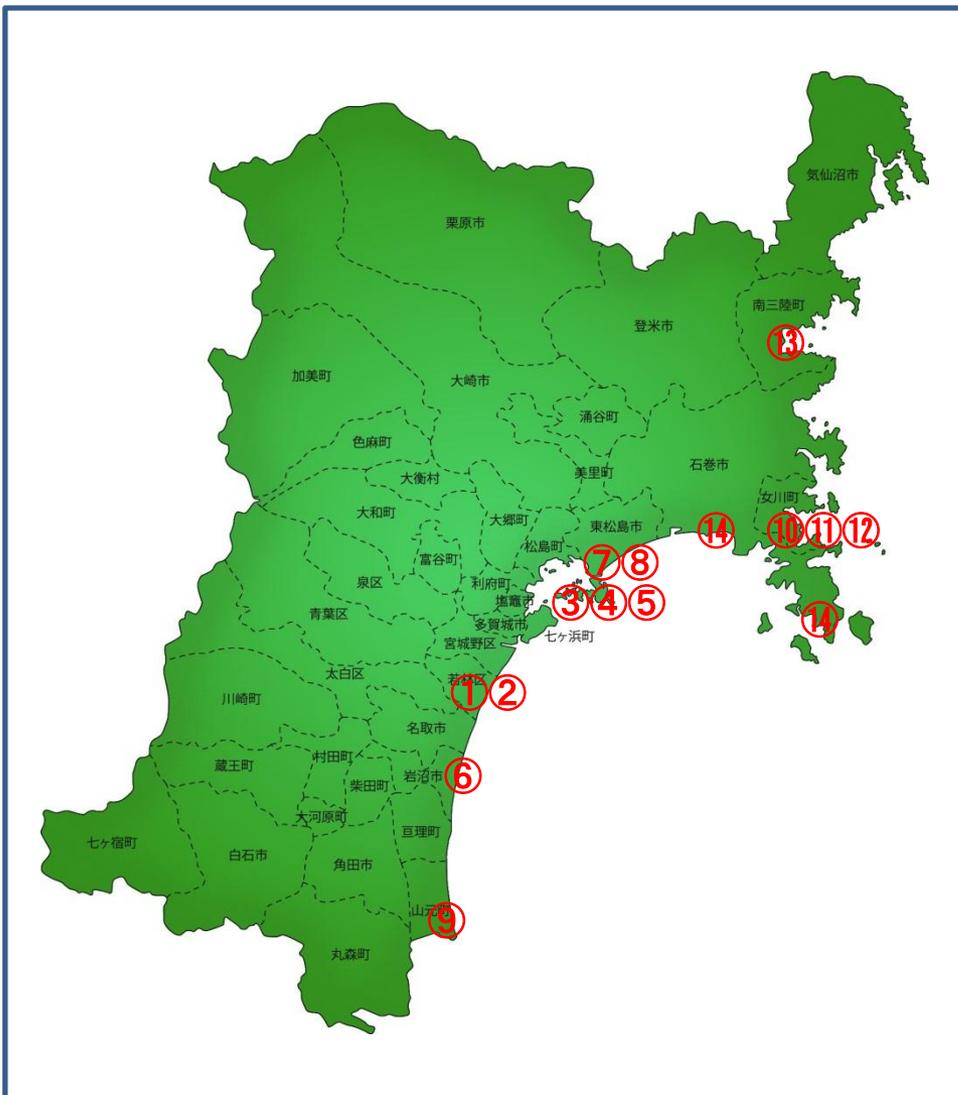


震災遺構の対象となる施設

資料4



①	仙台市立荒浜小学校
②	防災集団移転跡地集落内建物基礎
③	野々島の津波湾
④	浦戸寒風沢の津波石
⑤	野々島崩壊地
⑥	高大瀬遺跡の地層
⑦	かんぼの宿 松島
⑧	JR仙石線 野蒜駅プラットフォーム
⑨	中浜小学校
⑩	旧女川交番
⑪	女川サプリメント(薬局)
⑫	江島共済会館(宿泊施設)
⑬	南三陸町防災対策庁舎
⑭	石巻市の震災遺構の候補となりうる被災建築物等

⑥ 高大瀬遺跡の地層(岩沼市)



2013年11月3日 河北新報

「慶長三陸」「貞観」地震の津波堆積物同時に発見 岩沼

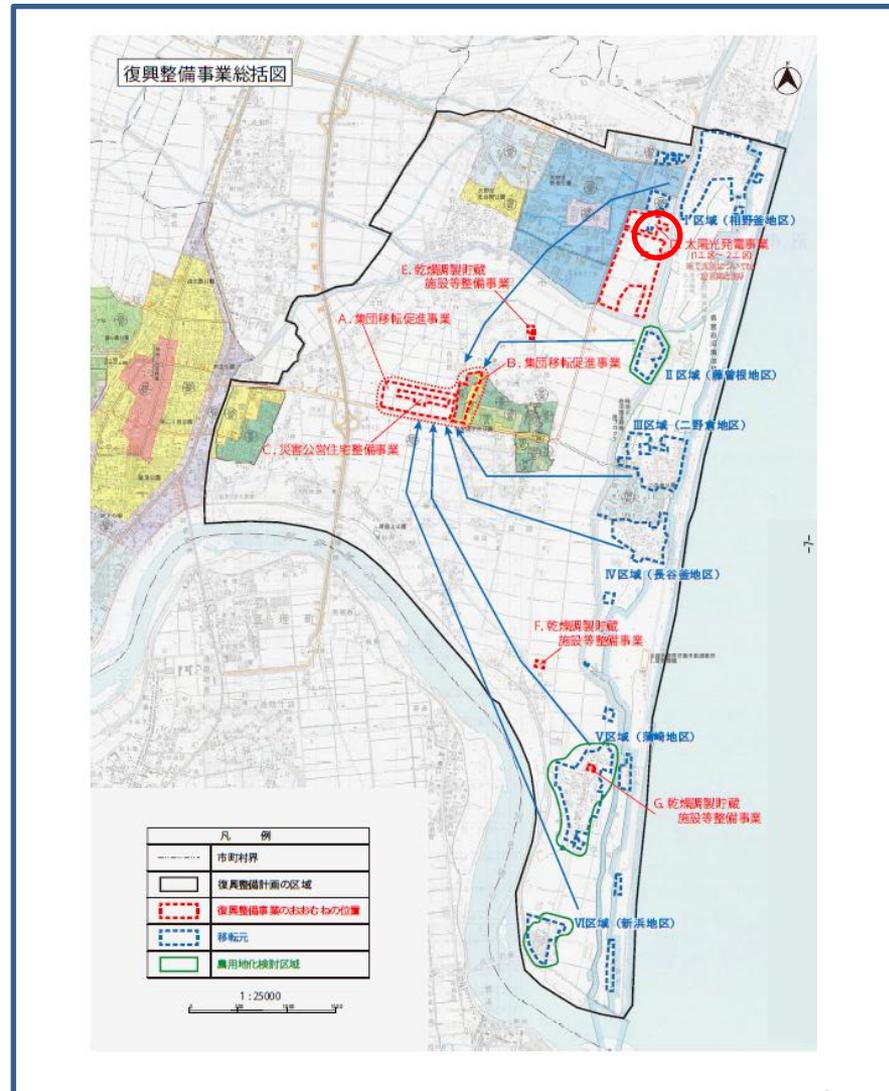
宮城県岩沼市教委は、東日本大震災で被災した同市下野郷の地層で、慶長三陸地震(1611年)と貞観地震(869年)の津波堆積物とみられる砂層を発見した。仙台湾周辺の同じ場所で、時代の異なる津波堆積物が見つかるのは初めて。

現場は海岸線から約1.2キロ内陸の位置。復興事業の一環で排水機場を建設するため、平安時代の土器が出土している高大瀬遺跡周辺を調査する中で確認された。

慶長三陸地震の津波堆積物は、表層近くに積もった東日本大震災の津波堆積物の20センチほど下層で見つかった。厚さ約5センチの入り組んだ形の褐色の層で、細かい砂で構成されている。上面を江戸時代後期以降の水田耕作で削られており、本来の厚さは不明だという。

貞観地震の津波堆積物はそのさらに30センチほど下層で確認された。厚さ25～30センチで、全体に青っぽく見える粗い砂が堆積している。直径3～8センチの粘土の塊や、上層に生えていた植物の根も多数入り込んでいた。

調査結果について東北大災害科学国際研究所の後藤和久准教授(地質学)が3日、同市内で講演し、「農地耕作で消失しやすい慶長三陸地震の堆積物を含め、三つの砂層が1カ所で見られる場所は非常に貴重」と指摘。「過去の災害を知り、今後の防災教育に役立ててほしい」と話した。



⑦かんぽの宿 松島(東松島市)



2013年11月30日 河北新報

東松島市、被災かんぽの宿活用 伝承施設など想定 取得方針

宮城県東松島市は29日、東日本大震災で被災した野蒜地区の「かんぽの宿 松島」について、日本郵政から取得した上で民間業者に運営を委ねる活用方針案を明らかにした。観光客の受け入れや震災伝承の機能を備えることを想定している。

かんぽの宿は鉄筋4階、延べ床面積約7200平方メートル。津波で2階まで浸水し休業している。

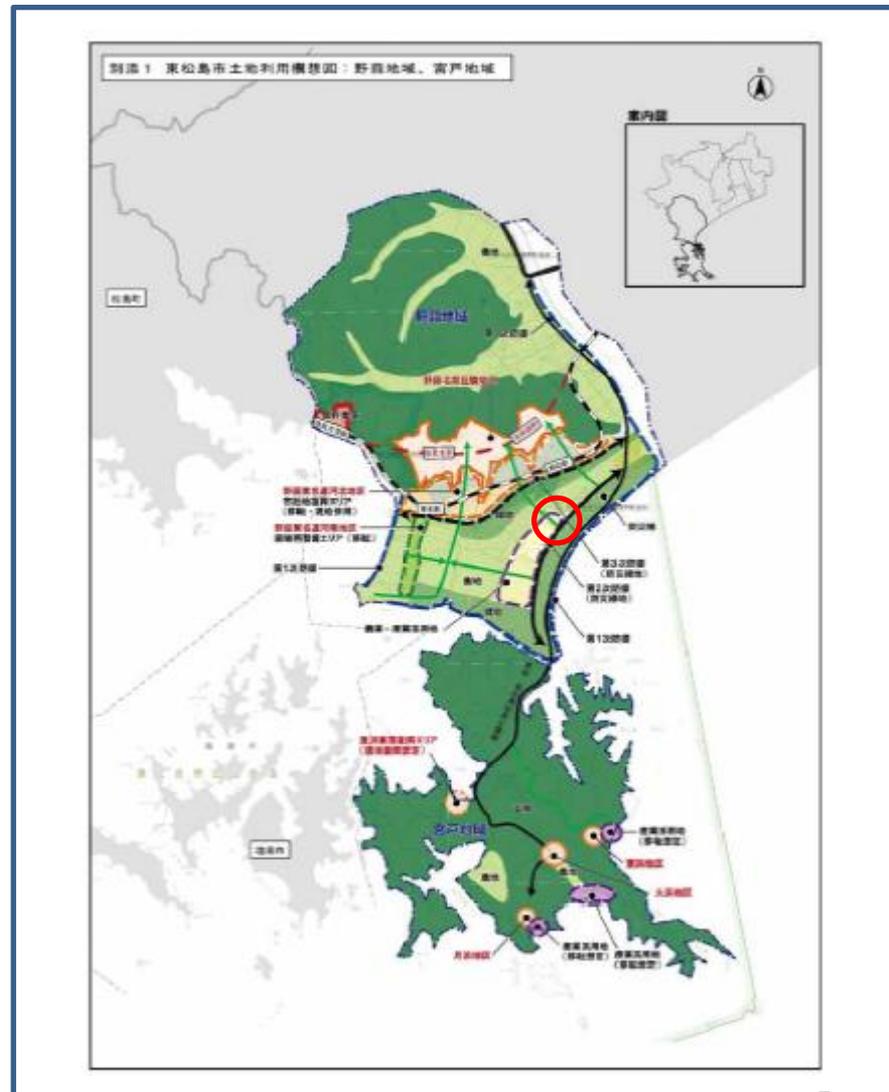
市は(1)奥松島の観光客用宿泊施設(2)被災・復興状況の記録施設(3)環境未来都市構想の学習施設(4)野蒜海岸の海水浴客用避難ビルなどとして活用を見込む。

地元の住民組織が昨年、避難場所とすることを市に提言。県内のホテル業者は市などに取得する意向を伝えている。

市によると、日本郵政は民間には被災物件を譲渡できないが、市への売却は可能として両者で協議している。市は震災遺構整備の初期費用を支援する国の復興交付金活用も検討する。

取得後に修繕費や維持管理費が掛かることから、市は民間に賃貸借して修繕費を負担してもらい、将来的に売却することも視野に入れる。復興交付金で購入後に売却した場合、交付金を国に返還する。

民間に委ねる際は、市の施設活用方針や復興まちづくり計画などに沿うよう求める考え。市は「周囲に高い建物がなく、施設が維持できれば万が一のときも安心。団体客が泊まれる施設は奥松島の観光振興につながる」と説明している。



⑧JR仙石線 野蒜駅プラットフォーム（東松島市）



2013年11月8日 河北新報

被災の野蒜駅、観光拠点に 東松島市が修繕、活用方針

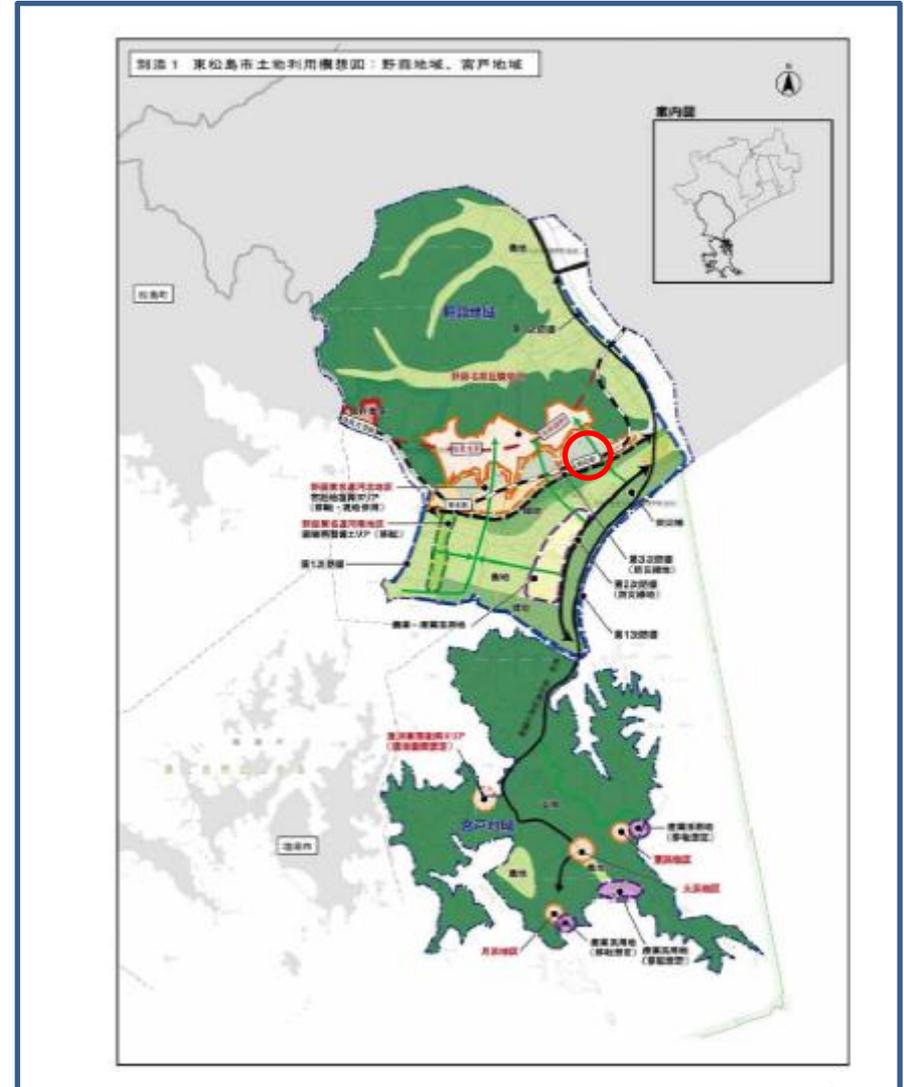
宮城県東松島市は7日、東日本大震災で被災したJR野蒜駅を観光や交流の拠点施設として活用する方針を明らかにした。市はJR東日本と協議した上で民間企業を対象に施設運営の事業者を公募し、来年度中の利用開始を目指す。

野蒜駅は鉄筋コンクリート一部2階、床面積約580平方メートルで、市が奥松島観光情報センターを併設していた。1階部分が浸水し現在は閉鎖されているが、休日には周辺に観光客が立ち寄り、住民が特産品を販売するなどしている。

駅舎をめぐっては地元から保存を求める声が上がっていた。市は維持費を要する震災遺構として残すことが難しいとみて、再利用策を模索。県の被災地域交流拠点施設整備事業で修繕し、観光・交流の機能がメインの施設とすることを決めた。JR東が所有している改札などのスペースは貸与や譲渡を受ける方向で協議し、ホーム部分の活用も検討する。

施設は市が事業者に貸し付け、震災と復興の様子を紹介したり、物産販売や住民向けに日用品を扱う店舗を設けたりする考えだ。

野蒜駅を含む区間が休止中の仙石線は、内陸側にルートが変更される。市は新たな野蒜駅の隣接地にも観光情報施設を整備する方針を示している。市復興政策部の古山守夫部長は「被災した駅舎を活用して観光客を誘導し、被災地域の振興につなげた」と話した。



⑨旧中浜小学校(山元町)



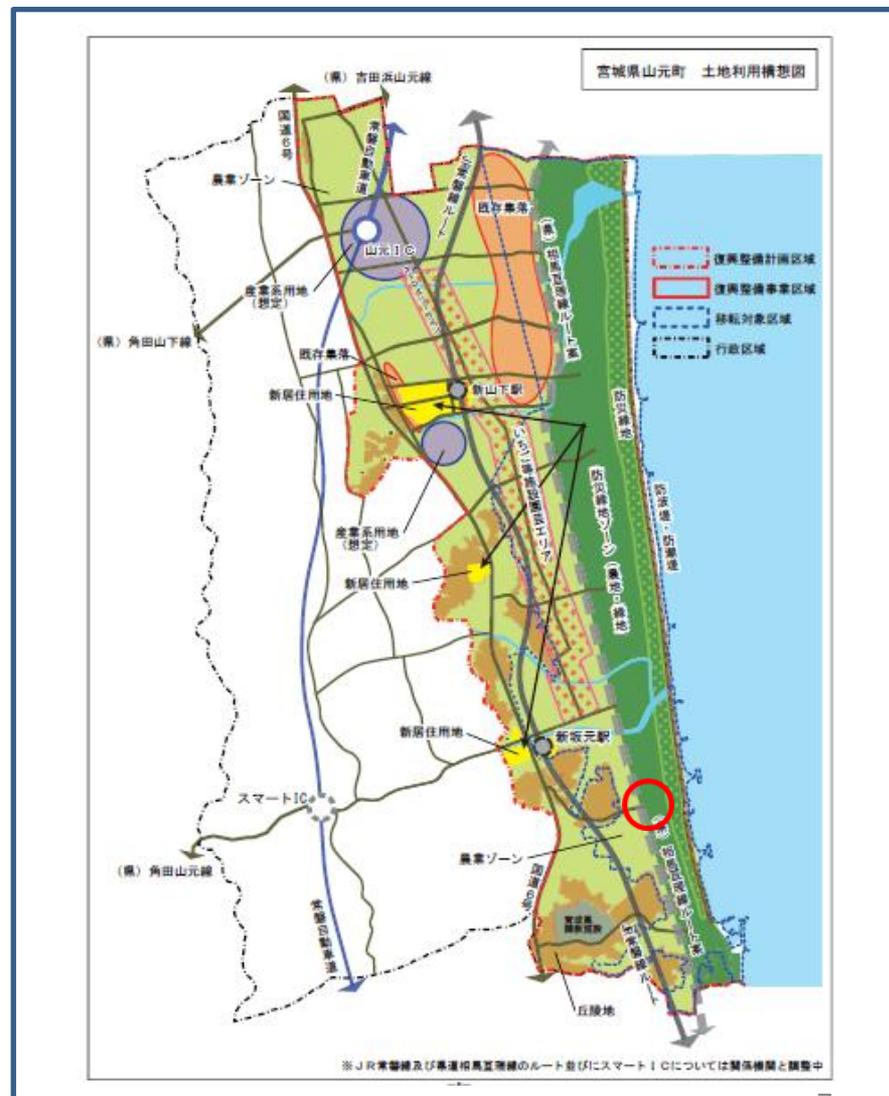
2013年11月30日 河北新報

震災遺構保存で初の交付金 山元・旧中浜小校舎1100万円

東日本大震災の津波被災地に残る震災遺構の保存をめぐり、復興庁は29日に発表した復興交付金の第7次配分で、岩手県宮古市田老地区の「たろう観光ホテル」の改修工事費として2億1000万円を交付した。遺構保存に向けた初期費用への交付金適用は初めて。宮城県山元町の旧中浜小校舎の保存には、調査費1100万円を充てた。

たろう観光ホテルは6階のうち4階まで津波に襲われ、1、2階部分は骨組みがむき出しになっている。宮古市は保存を目指し、国に財政支援を要請。安全確保のための破損箇所の改修やさび付いた鉄骨の修復、駐車場整備などの工事費が認められた。

山元町が保存を目指す旧中浜小は、津波で鉄筋2階の校舎がほぼ水没。児童ら約90人は屋上に避難し、被害を逃れた。震災遺構の調査費が盛り込まれるのは、宮城県内で初のケースになる。



※Jの常磐線及び東海道東北線ルート並びにスマートICについては関係機関と調整中

⑩旧女川交番・⑪女川サプリメント・⑫江島共済会館(女川町)



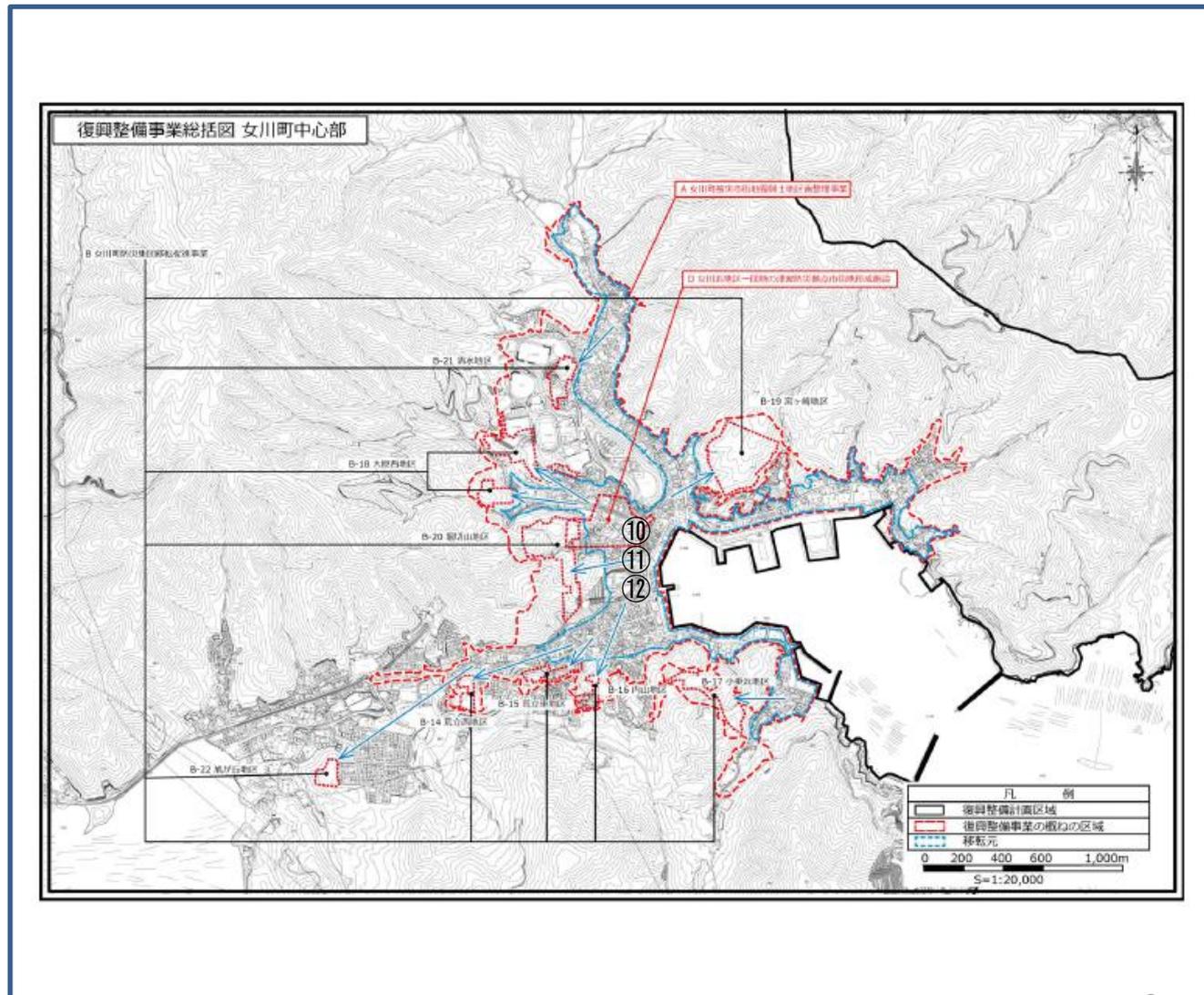
⑩旧女川交番



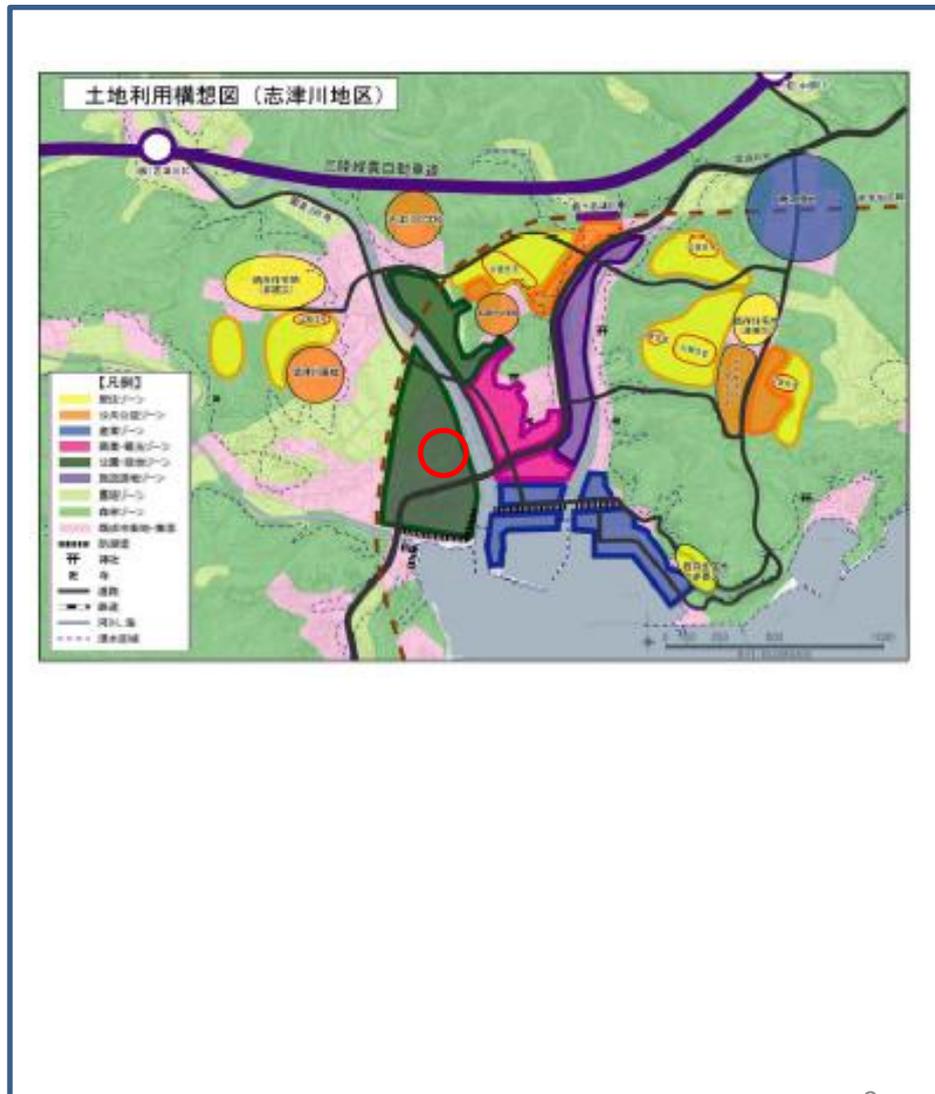
⑪女川サプリメント



⑫江島共済会館



⑬南三陸町防災対策庁舎（南三陸町）



2013年11月13日 河北新報

南三陸町の庁舎解体、宮城県に依頼 主要部材引き取る方針

東日本大震災で43人が犠牲となった宮城県南三陸町の防災対策庁舎をめぐる、町は12日までに、主要部材の保存など最終的な要望を県に伝え、あらためて解体を依頼した。

庁舎解体は災害廃棄物処理の中で県が担当しており、作業日程は業者と調整して県が判断する。村井嘉浩知事や根本匠復興相は震災遺構の保存の在り方について近く方向性を示す見通しで、いつ解体が始まるかは未定だ。

町によると、佐藤仁町長が11日に県庁に赴き、庁舎解体の決定を震災廃棄物対策課に伝えた。12日には確認事項として残っていた解体方法について、鉄骨などの主要部材を解体後に町が引き取る考えを伝えた。遺族の一部が要望する解体前の庁舎屋上への立ち入りについても配慮を求めた。

町は庁舎周辺に震災復興祈念公園の整備を計画している。部材は当面保存し、どんな使い方ができるのかを検討する。

県震災廃棄物対策課は「町の方針は聞いたが、遺構の保存について国が検討しており、すぐに解体する状況にはない。まずは、その推移を見守る」と説明している。

震災遺構の候補となりうる被災建築物等(石巻市)



①住吉公園



③観慶丸商店



⑤旧門脇小学校



②旧東北実業銀行石巻支店



④本間家土蔵



⑥中瀬北地区



⑦旧石巻ハリストス正教会



震災遺構の候補となりうる被災建築物等（石巻市）



旧おしかホエールランド

